移住者様

○○町民より、
○○町民らしい、
○○町民になろう。

2012.08時点の試案

永住を成功させるために

ようこそ◯◯町に移住してくださいまして、
ありがとうございます。
関係者として厚く御礼申し上げます。

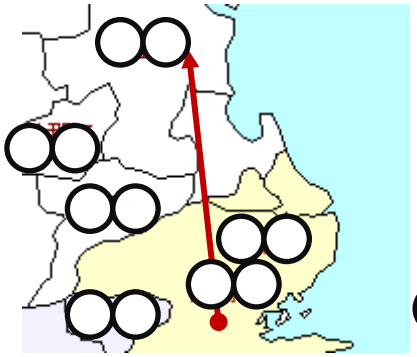
さて、見ず知らずの◯◯町に住んではみたものの、
家族の意思疎通の問題や、
前住居の処分問題や、
◯◯町での就職問題など、数多くの難題が
まちかまえていることと思います。

また、時代は大変革の時に突入しており、
世間のお気楽泰平ムードとは裏腹に、
移住者様には大変革の息吹を肌で感じておられることと思います。

本稿は、段階的に(あるいは意識的に)準備・着手することで
新しい永住のふるさとづくりの指針になればと思い
まとめさせていただきました。

段階❶ 移住と同時に始める定職探し

状 況



●エリア
サラリーマン正社員の雇用は厳しく、
求人は○○市内に集中している。

●給与水準
首都圏の半分かもしれない。

●通勤時間
○○市内までクルマで1時間強
(○○街道をいくと早い)
(バイクが早くて便利)

●職種
選択の余地がない。

●必要に迫られて
生活費確保のため
必要に迫られて就労
しているのが実情。

お悩み

●したいこととの乖離
移住して「本当にしたいことは
なんだったのだろう」と悩む。

●資本力の限界
農業をしてみたいが、
土地を借りたり機器を動かす
資本力がない。

●ノウハウ経験の欠如
農業の経験がなく(浅く)
一本立ちできる自信がない。

●時間がない
首都圏で働いていたのと
同じように「時間を会社に
奪われていいのだろうか」と悩む。

現時点(2012.08.21)では、資本主義経済体制がまだ動いているため、「お金儲け」の呪縛からは逃れることができない。しかし、時代の大変革が始まっており、この荒波を人類は避けることはできない。したがって、○○町での移住は、大変革を見据えたものにする意識的な準備が必要だと思います。

段階❷ 菜園を借りて、余暇に子どもと耕作をしてみる

農地を借りる

●農業は経験第一
農業は天候や土地など数々の
要因に左右され、
経験がモノを言うスキルです。

●菜園を借りる
日曜園芸を通して
一通り野菜や芋も自作してみる。

●週末園芸
農業は毎日様子を見ないと
うまくいかないため、
勤務との両立のためには
家庭菜園で精一杯です。

●子どもといっしょに
子どもと一緒に農作業する事で
土や生き物とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝできます。

日曜園芸の経験者としてメリットは

●土や生き物とのつながりを感じられる
スピリチャル系の人の説教は空論が多く、説得力に欠けるが、自分で土をいじり、ミミズやバッタやアブラムシやテントウムシと実際に触れ合うことで(戦うことで)、自給自足が**天給自足**ということだと実感できるようになる。**生物循環が肌で分かるようになり、自然界に畏敬と感謝の念が湧いてくる。**

●反原発のイデオロギーが身体でわかる
祝島の漁業のかあちゃんが身体を鎖で結んで反原発闘争を行なったが、それはイデオロギー先行ではなく、キレイな海を、魚の宝を、子孫末代まで残すという信念からだった。**自然界に生かされている自覚があれば、祝島の気概が身体で共感できる。土に生かされている体感こそが、反原発の思想的なバックボーンである。**

子どもに対して現在の教育システムは、知識と記憶を重視していますが、自然界の循環のありさまや、太陽の恵み、風の恵み(受粉)、土の恵み、雨の恵み、気温の恵み、ありとあらゆる恵みと助け合いのさまを教えることは不可能です。ただ一つ、**土いじりをともにする、汗を流すことで、子どもは肌で自然界の価値を感じて行ってくれます。**われわれ親が子どもに継承すべき第一は、科学文明ではなく、**それ以前の自然の営みそのもの**であると考えます。**生命への畏敬**が育たないかぎり、利権と技術に溺れる失敗を繰り返すでしょう。

段階❸ 農業の手伝いを積極的に行なってノウハウを学ぶ

百姓を手伝う

●地元の農家と懇意になる
徒歩圏内の農家との関係が
宝物になります。
手伝いを申し出ましょう。

●手伝ってみる
アルバイト料などは出ないのを
覚悟の上で、
農薬や雑役など無味乾燥にみえる
仕事も手伝わせてもらう。

●記録を残して共有する
やってみたことを、移住者会議で
共有しあう。
悩みや気づきを
共有する。

メリットは

●座学と実践の相違を知る
自給自足型の生活は、ふくいち爆発後には、
理想的なライフスタイルとなりましたが、
農業は座学ではできません。
農学校に行く時間もないため、
とにかく経験することが大切。

●近隣農家との信頼関係構築
将来的に農業を専門化したい場合も、
近隣の農家とのパイプがないと無理。
水田が遠距離だと管理できない。
(歩いていける距離まで)。
信頼関係の上に、今後の共同展開が
みえてくる。

移住者にとっても初体験で、農家にとっても移住者を迎え入れることは初体験です。そのなかで、おたがいのニーズや目的を理解し合って、相互にお手伝いし合うかたちで関係を構築していくことが理想です。農業は日銭をうみません。現金化するまで半年かかります。ですのでお手伝いの報酬も、農産物とかの現物になることもあろうかとおもいますが、なにもない道を開拓していくぐらいのきもちで、相互理解が進んでいきますように。

段階❹ 高齢化した農家から、田んぼを借りてつくる

百姓第一歩

●百姓スタート
たねうえ、たうえから、おこめづくりをやってみる。

●聞く
わからないことはきく。

●記録を残して共有する
やってみたことを、移住者会議で共有しあう。
悩みや気づきを共有する。

メリットは

●安全安心なこめづくり
線量計で日々の環境をモニターしながら、安全安心のこめづくりを実践する。

●収穫と出荷
収穫したものは、
安全を求めるひとや、
安全価値の分かるルートに
ルート開拓して出荷する。

●ネット販売
新たな消費者づくりも、
〇〇町と他府県消費者を結びつける
きっかけになる。

年間の売上で年収がまかなえるかどうかが、分岐点となる。また、収益性と成長性を考えると、請け負い農業の大規模化ということになるが、アメリカ型の大規模農業がかならずしも天の意思と合致しているとはかぎらない。農薬の使用など、環境との折り合いなど、いろいろな現実的な課題との戦いとなる。

段階❺ 脱石油エネルギー時代の、自給

大変革の時代に

●異変がおきたとき
大地震または、原発爆発、または世界金融崩壊が起きると、基本的に社会構造そのものが停止する。

●石油も供給されない
大量消費時代を支えた世界貿易も停止して、石油が停止する。トラクターなどの農機が使えないことを想定する。

対策は

●自然農法
先人の残した自然農法のノウハウを得ておく。

●食べられるものリスト
山菜や野草など、食用・薬用となる植物がある。リスト化して、春には子どもと山菜つみにいくなど、実際に目で肌で体験しておく。

●共同作業
その大変革のなかでは、雇用というものもなくなり、自給自立が求められる。
近隣の有志で共同体を形成し(移住者会議、近隣町会など)、手作業の共同実施などを行なう。

大変革の時代がまもなく訪れようとしている。基本的な心得は、「何がおきても驚かず受け入れる」ことである。しかし、**皆様はすでにふくいちの爆発により、首都圏での生活を見切って移住してきたという素地があるため、こんどは、先住町民に対して大変革時代を切り開くリーダーシップが求められる。**
今までの敗戦をしのぐ、想像もできない大変革が始まる。そのなかで、最もたいせつなのは、食を自給していくという土地であり、ノウハウであり、メンバーであり、意思である。
なかでも、**生命畏敬という点で強く共感し合えるコミュニティ**は、混乱のなかでも相互にたすけあって、その混沌を乗り切っていくことができるでしょう。

共通していえること（1）〇〇町民の伝統的意識

空海・弘法大師の教え

●お遍路さんを接待する気性

〇〇町には〇〇寺があり、四国88カ所のひとつになっている。
そのため、昔からお遍路さんがひっきりなしに歩いていた。農家にも読経しにくることが多く、そのたびに宿泊させたり、米や農産物を接待していた。難しい教義は知らなくても、農家の人にはそういう意識が根付いているようだ。

対策は

●仲間を大切に

〇〇を選んだ**皆さんは、先住町民とともに運命共同体の一員です。会社より、家族より、縁が深い。**
仲間を大切にし、芋を植えて、あらゆる生活資材を自分で作って必死に生き抜くんだ。本当にそんな時代が目前にきている。

●利他思想のひと

これから生き残れる人は、まっすぐ相手を見られる人だ。ウソをつかない人だ。決して隠したり騙したりしない。**利他思想こそ人生最大の価値観と信じ、子供たちの未来を守るために団結し、誠実に行動できる人だけが生き残れる**と思う。嘘つきは自分にウソをついて被曝して死んでゆくだろう。

大変革の時代は、あらゆる制度、組織、企業も自治体も政府も宗教団体も政治団体も崩壊して、組織に依存することなどできなくなる。個人に立ち返らねばならない。自分の責任で自立することは本当に大変なことだ。仲間を大切にし、誠実、努力、信義、正義を重んじて生きることだ。
空海が生きた時代も社会は生きづらい時代だった。貧しかった。しかし、生きるための根幹を説いた。われわれが社会常識と呼んでいる近代文明は、空海以降の時代に比べればほんの50年。大量消費の贅沢も続くわけがない。自分さえよければいいという利己思想も続かない。**他に施す利他思想だけが、大変革の時代を超えていくパスポートになる。**

共通していえること（2）地球民としての意識

2012年12月、迎える節目

1．現代の物質文明は間もなく終わりを迎え、地球と人類はサナギが蝶に変わるように、次元を替えるらしい。その節目は2012年12月21日らしい(ほか説あり)。

2．現代の物質文明が終わり、精神が優先する時代になる。それは、宇宙の周期がそのように定められているためである。

3．「卒業」に至るまでは、聖書などの預言にもあるような「終末現象」（地震や洪水などの天災、および戦争や内乱・テロなどの人災）が起きる。

4．2012年以降は、世界の大変革がおきて、今までの物質文明が消えていくため、農地とつながりローテクな生活ノウハウを備えていないと必然的に餓死していくようになる。
その後、数年かけて、理想の新しい地球へと次元が上昇していく。

どういう人が次元上昇できるのか

●自分が肉体だけでなく、魂であるという自覚ができるひと
●魂として、心をきれいに磨くひと
●自分の欲望ばかり追求するのではなく、多くの人と分かち合うひと
●日頃から感謝して暮らすひと

●広く動植物を慈しみ、その生態系をまもるひと
●日光、空気、水、食物に感謝して、自他の生命と人格を敬うひと(自然を敬うひと)
●これ以上地球環境を汚さないひと(洗剤、シャンプー、歯磨きなど)

参照

■空海の伝統的な教えとおなじ内容である
■反原発を支える価値観とも共通している

○○町民であり「地球民」である自覚が大切。

共通していえること（3）特技・手に職・ローテクの復活

農プラスαとして、人に貢献できる特技をみつけておこう

衣

●電気を使わない手での裁縫
●衣類のリメイクのノウハウ
●きものなどの再活用ノウハウ
●ふんどしの復活

食

●電気やガスを使わない料理ノウハウ
●しちりんやかまどの構造、再生ノウハウ
●野草薬草の知識(場所・使い方)
●陶芸焼き物技術

住

●電気を使わない木工ノウハウ
●冬場の暖房(ひばち)
●五右衛門ぶろの工事(お釜をどうする？)
●井戸水
●冶金金属加工技術

●自転車修理、●車イス(高齢化対策)、●あんま・気功・ヒーリング技術、●幼児保育技術、●助産婦技術、●葬儀葬送技術、●ご神事技術・・・・・など

大量消費型の文明生活では、専門分化と高付加価値化が進み、われわれが根源的に必要としてきたノウハウが廃れてしまった(参考/昭和初期)。しかし、大変革時代になると、近代文明は機能しないため、地域コミュニティ内部で特技をもった者が集い、助け合う必要が生じてくる。移住者の仕事として、支援隊と連携しながら、高齢者が保持している昭和のローテクを棚卸しする必要がある。そして、名簿化しておき、技術の担当者をきめておいて、あらかじめ準備しておく。大変革が来ても準備しておけば、パニックにならないですむ。「公民館の無形文化財の保存事業です」というような趣旨で、老人に聞き取り調査などしておくのもよい。なんなら、市に事業化してもらってもよいぐらいです。

〇〇町民として
地球の進化に
立ち合おう。

つづく